

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700293		
法人名	日本システムサービス株式会社		
事業所名	グループホームいきいき岩見沢		
所在地	岩見沢市志文町1180-47		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和4年3月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JigvovsyoCd=0175700293-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和3年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の中、四季折々の変化を楽しみながら、地域の一員として、心穏やかに自分らしく、いきいきとした生活をしていただいております。

利用者様の住み慣れた地域での生活を支えるため、家庭的で暖かな雰囲気、笑顔とふれあいによる、居心地の良い環境を整え、利用者様とご家族様の心のケアを行い、「安心」と「幸せ」の場として穏やかに暮らし続けられるよう、努めております。

また、現在のADLおよびIADLを維持するために、できることは、ご自分で行っていただきながら、利用者の主体性を尊重した支援ができるよう取組みを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は岩見沢市郊外の小高い丘の閑静な住宅地にあり、近くには大型レジャー施設やバラ園、公園、ホームの前面には樹木の丘陵があり、四季の移り変わりを感じることができる自然環境に恵まれた地にある。鉄筋コンクリート・一部木造造り3階建てのアパートを改修して安全性を高め、個室、共用空間ともゆったりとし、居間・食堂は一体的で利用者の作品や行事の写真等を飾って家庭的な雰囲気、利用者はカラオケ、ぬり絵、ゲーム、パソコンで将棋をしたり、会話をするなど思い思いにゆったりと過ごしている。利用者は2回のコロナワクチン接種を終え、職員は明るく、開業時から欠かさず行っているラジオ体操や、利用者の体調管理(手洗い、うがい、消毒、朝夕の検温、酸素濃度測定など)に努め、利用者との会話を通して、お互いの信頼関係が保たれている。町内会に加入し行事に参加していたが、コロナ禍のため町内会の行事が中止となっている。利用者は天気の良い日には、近くを散歩しながら地域住民と挨拶を交したり、駐車場の前にテーブルを出してお茶やコーヒーを飲んだり、日向で会話を楽しんでいる。コロナ禍で外出が制限されているが、感染対策に努めて、買物やバラ園にグループ毎にドライブを兼ねて行ったり、七夕祭りや花火大会を行うなど、皆が「いきいきとその人らしい生活」を送ることができるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を日々の介護の中で、実践できているかをミーティング等で振り返りながら、反省・共有している。	ケア理念「地域の一員として心穏やかに生活をいきいきと自分らしく送られるよう支援します。」をホーム内に掲示して、毎月ミーティングで確認し、理解を深めて共有し、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の折、現在、地域との交流は控えている。	町内会に加入し、町内会の行事に参加しているが、コロナ禍のため行事が中止となっている。近くを散歩しながら地域住民と挨拶を交している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の折、現在、地域での活動は、難しい状況にある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、現在、内部だけでしており、内部研修の報告書を随時、地域包括支援センターへ提出している。	コロナ禍のため、書面での運営推進会議を2か月に1回、奇数月に開催している。利用者、職員が参加して、利用者の要望などを聞いて運営に活かしている。運営推進会議の結果については、行政へ報告し、意見質問などを聞いて、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情や問題等を常に相談させていただきご指導を頂きながら運営を行っている。	市担当者には、管理者が定期的に訪問して、運営推進会議の結果を報告するとともに、運営状況を報告したりコロナ関係の相談、区分変更時の指導を受けるなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い、全ての職員が具体的な行為を理解することで、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会(リモート会議)を開催し、「身体拘束排除マニュアル」を用いながらスタッフ会議や内部研修にて、勉強する機会を設け、拘束しないケアに努めている。運営者(社長)が毎月事業所を訪問し、身体拘束をしないケア、虐待防止などについて話合っている。玄関は夜間のみ防犯目的で施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待についての問題意識を持ち、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に動いている。		

グループホームいきいき岩見沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加するなどして、日常生活自立支援事業や成年後見制度等の理解を深める機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、ご家族には、時間をかけて十分な説明を行い、理解、納得していただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員が、利用者および家族からの意見・要望を聞くようにして、意見や要望を運営に反映するようにしている。	利用者とは日々の会話や表情から、意見や要望の把握に努めている。家族には2か月毎に利用者の様子を記載した手紙を送付すると共に電話で近況を報告して意見・要望を聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや普段の業務時に気づいた意見等を運営に反映させている。	毎月全職員で行うミーティングで職員の意見や提案を聞いたり、日々の業務の中で意見を聞いている。又、運営者(社長)が毎月事業所を訪問し、職員からの意見や提案を聞く機会を設けており、話しやすい環境を構築している。職員からの意見はその都度反映させており、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を発揮できる環境の整備につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量にあった研修の機会を設けると同時に、普段の業務においても新人職員の指導を行い、育成を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の会議や行事参加時に、同業者との交流や情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階でコミュニケーションをしっかりと取りながら、本人が困っていること、不安なこと要望等に耳を傾け、信頼関係を構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談において、家族の不安に耳を傾け、丁寧に説明し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居された利用者様とご家族には、サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等がまず必要とする支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の主体性を大切にし、スタッフも入居者と共に調理や食事をして、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙による入居者の状況報告やご家族の来訪時に、日常生活の様子をお知らせし、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、ご家族以外の面会等は、控えていただいております。2か月に1回のコミュニケーションをとれるよう支援しています。	感染対策をして11月から家族・兄弟との面会、遠方の家族とはリモート面会を実施している。2か月に1回の訪問理美容、買物やグループ毎にバラ園にドライブを兼ねて行ったりして、馴染みの関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活の様子や性格を把握し、利用者間に良い関係が築けるよう、配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、必要であれば、いつでも相談支援が行えるよう努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時に本人の思いや暮らし方の希望、意向を確認する。 困難な場合は、以前の暮らしぶりから、本人本位に検討している。	利用者全員が意思表示できるので、日常の会話などから意向の把握に努めている。家族等とはアセスメント時や面会時に希望、意向を確認し、また、2ヵ月毎に利用者の様子を記載した手紙を送付すると共に電話で近況を報告して希望や意向の把握に努めている。朝夕の申し送りでも共有し、希望や意向に添うように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集を丁寧に行い、これまでの暮らしの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の気づきと申し送り、経過記録を活用しながら情報を共有し、現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族から情報収集を行い、ミーティング等でスタッフから見た現状やアイデアを確認し、現状に即した介護計画を作成後、完成した介護計画をスタッフに回覧している。	利用者や家族の意向を反映させて、日々の変化をモニタリングし、ミーティング等で話し合い、6ヵ月毎に介護計画を作成して家族へ説明し、承認と確認印を得ている。変化があればその都度見直し対応している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有するために、正確な記録と、申し送りをして、介護の実践や計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに柔軟に対応するために固定観念にとらわれず、今出来ることは何かを探りながらサービスの提供に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報収集に努め、本人に合った資源を活用しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は4週に1回の往診があり、24時間連絡が取れ、安心して医療が受けられるような体制が整っている。	利用者、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診している。付き添いは原則家族が行うが、都合が悪い場合や緊急時は職員が同行している。毎月1回、協力医療機関医師の往診、看護師の訪問があり、緊急時にも指示を受けられる体制で、適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないが、協力医療機関から病状の把握と適切な報告の手引きの訓練を受け、病変時の指示を仰ぎ適切な対応をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が安心して治療できるように、医療関係者(主治医)との関係づくりを行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で支援できること・できないことの説明は行なっている。状況に応じて主治医への連絡体制を整えている。	入居時に利用者、家族に、重度化した場合における対応について説明し、同意を得ている。重度化した場合は利用者、家族の意向を聞きながら、医師と連携し希望に添えるよう話し合いを行っている。看取りを1件経験し、可能な限り長く過ごせるように支援している。	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所の方針を利用者、家族に説明し理解を得ているが、事業所としての方針・指針を文書化して職員で共有し、利用者、家族などと話し合うことを期待する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習を受け、実践力を身に付けている。AEDの研修で、認定証を受けている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、地域緊急連絡網を作成し、地域との協力体制を築いている。	コロナ禍のため、消防署からビデヲを借り受けて、年2回ビデヲを見ながら避難訓練を行っている。災害時対応マニュアル、緊急時対応マニュアルを作成し、水、食料、ポータブルストーブ、灯油などを備蓄している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンス時に職員間で互いの関わり方を点検するなど、人格尊重やプライバシーを配慮した関わり方の徹底をはかっている。	利用者への気持ちを大切に小さな行動を見守りながら、丁寧な声かけに努めている。運営者(社長)が毎月事業所を訪問し、職員研修を実施し、職員の言葉遣いへの意識を向上させつつ、職員全員で話合うことで、適切な声かけへと結びつけている。介護日誌などプライバシーに関わる資料は、書庫に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が気兼ねなく希望を言え、自己決定できる関係作りを心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの生活のペースを大切に、その人らしい暮らしが出来るよう支援している。			

グループホームいきいき岩見沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が選択したおしゃれを楽しめるように支援している。四季に合った装いができるよう、衣替え等の支援もおこなっている。					
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりの好みを配慮したメニューを工夫している。個々の能力に応じて、準備や片付けと一緒にやっている。	献立は職員が作成し、買物・調理は職員が行い、利用者は能力に応じ茶わんふき、後片付け、掃除などを行い、誕生日には生寿司など利用者の希望を取り入れている。一人ひとりの好みや体調に合わせ、トウモロコシ、果物など季節の物を取り入れるなど、職員と一緒に食事を楽しんでいる。				
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状況に応じて、おかゆ、刻み、とろみ、分量の調整等の対応を行い、栄養バランスや水分確保を個別に行っている。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科主治医の指導のもと、本人では汚れが落ちていない時はブラッシング等の介助をしている。食前にはあいうえべ体操を行い、誤嚥の予防に取り組んでいる。					
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを理解し、適切な声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	一人がオムツを利用し、他の利用者は自立排泄している。個々の排泄パターンを把握しているため、表情や態度に気をつけながら、適時にさりげなく声かけを行い自立排泄に繋げている。				
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時(AM6:30)の牛乳、温かいお茶の摂取や午前中(AM10:00)の散歩、ラジオ体操等を行い、個々に応じた予防に取り組んでいる。					
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入る順番が公平になるよう、ローテーションを組むなど柔軟に対応している。体調を見ながら、無理じいすることなく入浴を楽しめるよう支援をしている。	週2回午後からの入浴を基本としているが、夏は入浴を楽しむ利用者もおり、利用者の希望に添った支援をしている。その都度お湯を取り換え入浴剤を入れて、職員と会話をしながら入浴を楽しんでいる。入浴を好まない利用者には無理せず、清拭で対応するなど工夫している。				
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、室内や屋外の散歩や運動等の機会をつくり、その時々状況に応じて、個々のペースに合わせてながら支援している。					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月の往診時に医師、薬剤師に薬の内容を確認し、その情報や個々の服薬状況をまとめ、スタッフに回覧し共有している。症状変化には日々気をつけるように努めている。					

グループホームいきいき岩見沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活習慣に合わせ、日常的に楽しめるよう、外食や紙芝居、トランプ等で気分転換の機会をつくり、個々に食器洗い等の役割を与え、自立を促している。					
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の折、不要な外出支援は控えている。そのかわり、室内でできるレクを多くしている。	天気の良い日には町内を散歩したり、駐車場の前にテーブルを出してお茶やコーヒーを飲んだり、日向で会話を楽しんでいる。コロナ禍で外出が制限されているが、感染対策を取って、買物やグループ毎にバラ園にドライブを兼ねて行ったりして、日常の生活に潤いと変化を提供するよう工夫している。				
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でのお金の管理は必要最低限でしか行わず、一人ひとりの希望等に応じ支援している。月に一度、個々のお小遣い帳をまとめ、家族等へ送付している。					
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話の子機を提供し、家族や友人への架電や、手紙のやり取りを支援している。通話(3分120円)、郵送料は実費。					
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りを心掛けている。季節の変化を感じ取れるよう、心地良く過ごせるよう工夫をしている。	食堂と居間は一体的な作りで明るくゆったりしている。利用者の作品や行事の写真等を飾って家庭的な雰囲気、広い窓から見える樹木の丘陵は四季の移り変わりを感ずることが出来る。広い廊下には室内運動器具などがあり利用者が楽しんでいる。利用者はカラオケ、ぬり絵、ゲーム、パソコンで将棋をしたり、会話をするなど思い思いの時間を楽しみながら過ごしている。				
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間において、ひとりひとりが居心地良く過ごせるよう、椅子やテーブルの配置を工夫している。					
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の品を置き、本人が居心地よく、落ち着いて過ごせるよう、工夫している。	備え付けの押し入れがあり、自宅で使用していた家具、冷蔵庫や仏壇など思い出の品を持ち込み、過ごしやすいよう配置して居心地よく過ごせるよう工夫している。				
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、家具の配置、目印等を工夫し、個々の身体状況に合わせ安全に自立した生活が送れるよう努めている。					